

## ふるさとと脳幹

旧制3期 能代高校東京同窓会会長

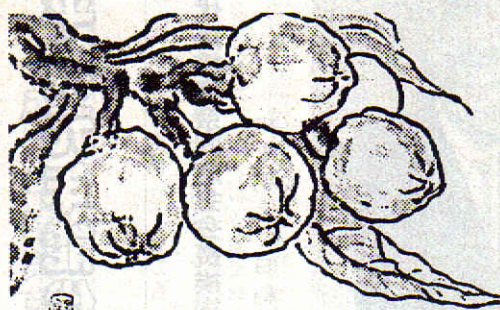
板倉 創造

飛行機を始めとする交通機関のめざましい発達で、「ふるさととは遠くにありて思うもの」と、青春時代に愛唱した名品も、物理的にはとても実感しがたくなってしまった。これは、科学技術と物質文明を高度に活用してきた日本人の英知の一端であり、思えばありがたい時代である。おかげで、今や日本は史上空前の経済的繁栄を迎えていると言う。それもこれも、多くの人たちがこの国の人よりも勤勉に、知恵を絞り続けた結果であろう。考えてみれば、ふるさとを遠く離れ上京したわれわれも、常に前頭葉をフルに駆使する立場に自らを追い込んで来たようである。そしてそれが、誰の目にも疑いのない美質であり、生きがいでもあった。

しかし、日本の産業構造は今怒濤の勢いで、メーカー型からサービス型へと移行している。知識と経験を活かして、目標をいち早く達成し課題をこなすだけでは足りない時代に入ろうとしているのではないだろうか。冷静な理知の背後に、暖かい情意が必要な時代になりつつある。脳の中で知識や経験が蓄積され、随時活用する役割を担うのがおおむね前頭葉だと言う。いかにこの部分に多くの知識を蓄え、引き出す技術を詰め込むか。これが、現在もなお至上のものとなされ、幼い子供の教育の現場では、これしかないかの観を呈している。しかし、いくら前頭葉を鍛えても、人間味や思いやりを育むことにはならない。

大脳の裏にひっそりと身を隠す「脳幹」が、人間らしさを司る部分だとされている。そして、この脳幹から発せられる情意を土台にした前頭葉の働きこそ、これからの社会に求められる頭脳であると言えよう。つまり、脳幹を鍛える時代と言ってもいい。

豊かな人間味や暖かい思いやりの原点は、やはり無邪気に過ごしたふるさとにある。第一線のストレスに身をすり減らした時、ふるさとの山・河の美しさをふと思ひ、ふるさとの祭りの思い出にひたりながら脳幹を鍛えることこそ、これから最もナウい生き方と言えるのではなからうか。



# 平成元年能代高校東京同窓会総会開催

10月6日 午後5時  
於・茗蹊会館

第一部 講演会  
第二部 総会  
第三部 懇親会

## 能代高校東京同窓会会長挨拶

板倉創造 旧制3期



代高校という枠を越えて、能代全体を包括するようなスケールに発展していると考えていいと思います。卒業生も我々バンカラ中学生だけの時代と違いました、今は女性の卒業生も多く、かつその方たちにも気兼ねなく大勢参加していただいているというのも、この会がすばらしい会である証と自画自賛するしいです。

今日は講演会講師として新制19期卒、昨年まで阪急ブレイブスで活躍された、現在NHKで解説をなさっている山田久志さんをお呼びしております。この機会を利用して、ひとつゆつくりと旧交を暖めていただきたいと思います。

簡単ではありますが、挨拶にかえさせていただきます。

## 事務局長報告

小林肇 旧制19期

みなさんお晩です。公私とも忙しい中を多数の方においでいただきまして、本当にありがとうございます。



毎年毎年、この会もみなさんのご協力を得て、参加者も着実に増えてまいりました。今回は二百三名の参加となっております。

本来ならば、ここで山田久志さんの講演があるわけですが、交通渋滞で遅れておりますので、総会を先に行わせていただきます。

本同窓会は、今年度役員改選の年にあたっております。従ってここで役員改選の議事を進行させるところですが、先日幹事会で役員改選の協議をいたしました結果、全役員留任と決議されました。よって今回は略式ながら、この報告をもって承認していただきたいと思っております。拍手をもってお願いいたします。

では全役員が今年を含めまして2年留任で努めさせていただきます。

この会も昭和51年に新しいかたちで発足して以来、13回目を迎えます。会の新鮮さを保つていくためには、やはり役員改選が必要かと思えます。そこで来期からは新しい若手役員を選出し、新たな同窓会としてより発展させていきたいと考えております。今回の役員留任は、若手役員の養育期間と考えて、みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

さて、総会を開催するにあたって、同窓会名簿から拾い上げたデータを報告させていただきます。現在名簿には千三百三十八名載っております。今回住所変更などで戻ってきた方は64名と非常に少ない数であり、出欠の連絡をいただきましたのが四百七十五名でございます。これもまたみなさんのご協力を得て、ご返事をいただいたということになります。このうち百六十四名の方が旧制で、あとは新制の方々です。いかに会員も若返りつつあるかということ